

2013 年(平成 25 年) の世界と日本の年平均気温

- ・ 2013 年の世界の年平均気温偏差は+0.20℃で、1891 年以降で 2 番目に高い値でした。
- ・ 2013 年の日本の年平均気温偏差は+0.34℃で、1898 年以降で 8 番目に高い値でした。

世界の年平均気温

2013 年の世界の年平均気温偏差(1981～2010 年の 30 年平均値を基準値とし、平均気温から基準値を差し引いた値)は+0.20℃で、統計を開始した 1891 年以降では 2 番目に高い値となりました。世界の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 0.69℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代半ば以降、高温となる年が多くなっています(図 1)。

月別、季節別では、9 月と 11 月の世界の平均気温偏差(それぞれ+0.26℃、+0.31℃)、及び 9 月～11 月(北半球における秋季)の世界の平均気温偏差(+0.26℃) は、統計を開始した 1891 年以降で第 1 位の高い記録でした。また、地域別では、ユーラシア大陸やオーストラリアで広く高温偏差となったほか、海域では北太平洋中央部で高温、太平洋赤道域で低温偏差となる特徴が見られました(図 2)。

なお、陸域のみの年平均気温偏差は+0.34℃で、1891 年以降では 4 番目に高い値でした。

日本の年平均気温

2013 年の日本の年平均気温偏差*は+0.34℃で、統計を開始した 1898 年以降では 8 番目に高い値でした。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.14℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が頻出しています(図 3)。

年平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響に、数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものと考えられます。

年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温は気象庁ホームページにて随時更新・掲載しています。

(<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>)

※日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、長期間にわたる気温観測データが存在し、都市化による影響が少なく、特定の地域に偏らないように選定した地点の気象台等の観測値を採用しています。2013 年 12 月 24 日から、これらの地点を一部変更して 15 地点(網走、根室、寿都、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島)とし、過去に遡って日本の平均気温の偏差を再計算しています。

本件に関する問い合わせ先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課
電話 03-3212-8341 (内線 2264)

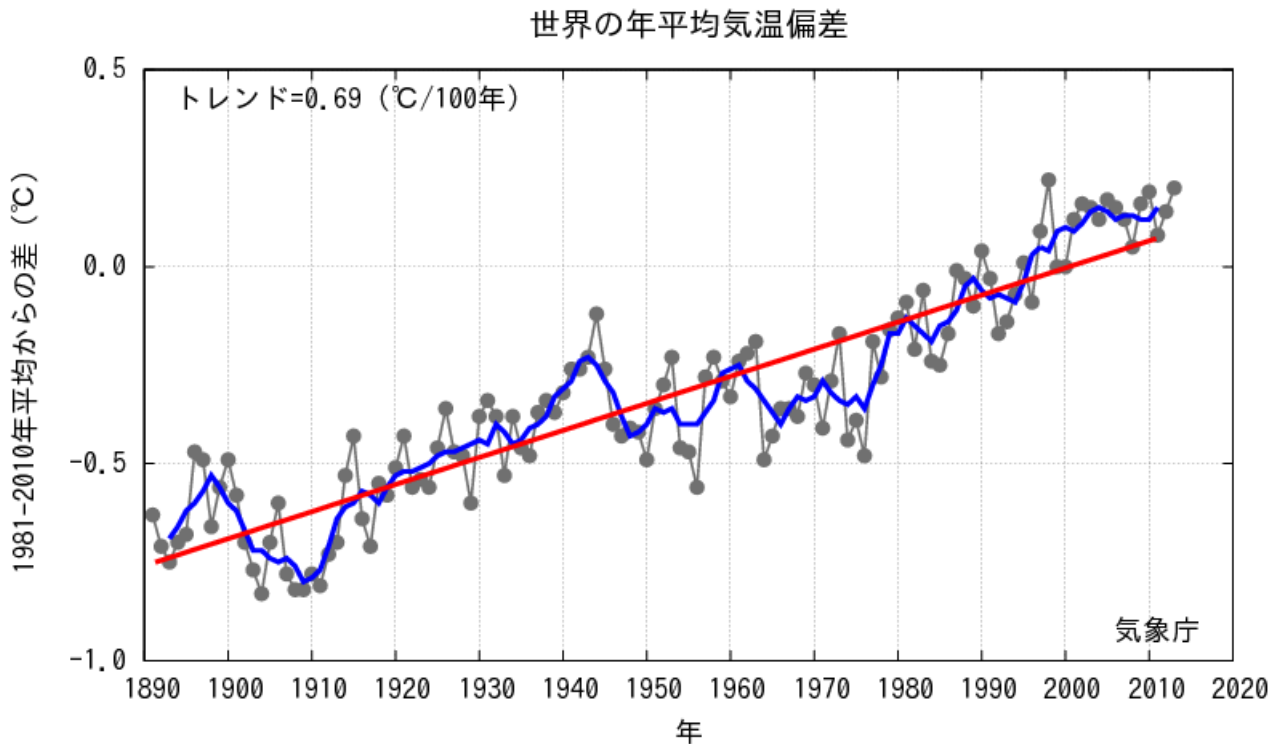


図1 世界の年平均気温偏差の経年変化(1891～2013年)
黒線は各年の値、青線は各年の値の5年移動平均、赤線は長期変化傾向を示す。

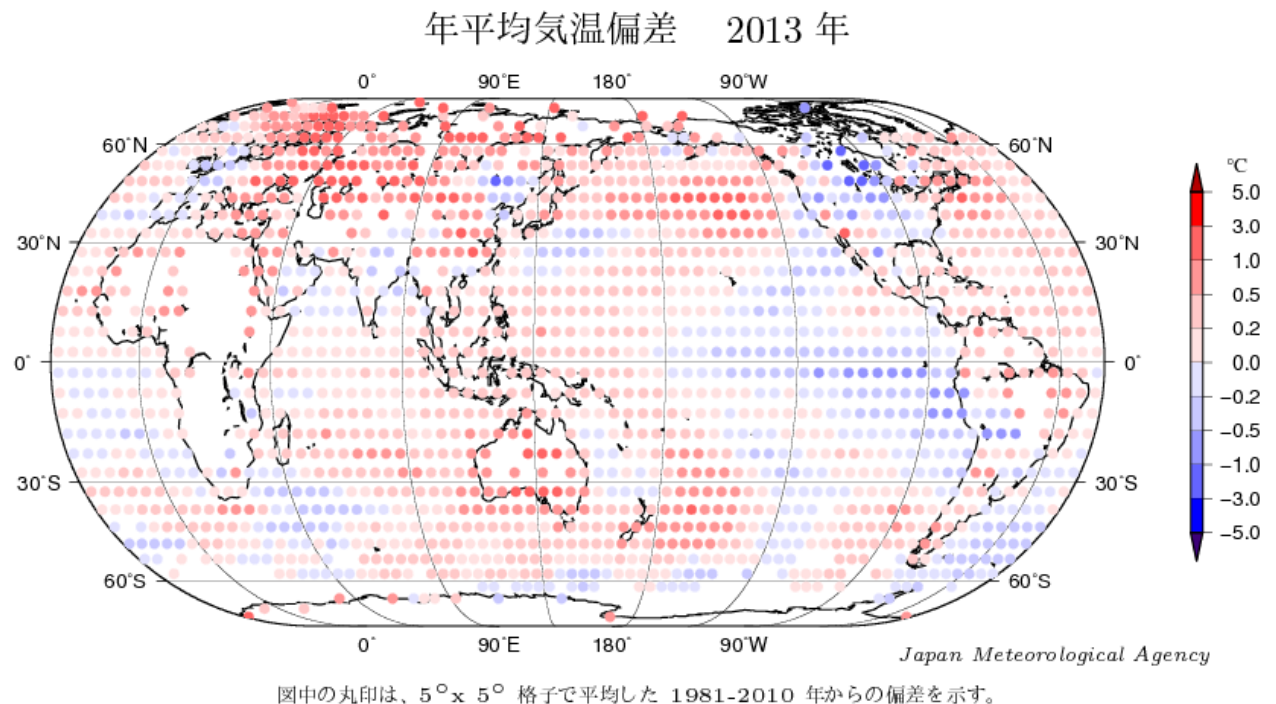


図2 2013年の年平均気温偏差の分布図
各観測点の偏差を緯度、経度5度の領域ごと平均した値で示す。なお、1891年以降の各月の月平均気温偏差および各年の年平均気温偏差の分布図を次のページに掲載している。
http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/map/temp_map.html

日本の年平均気温偏差

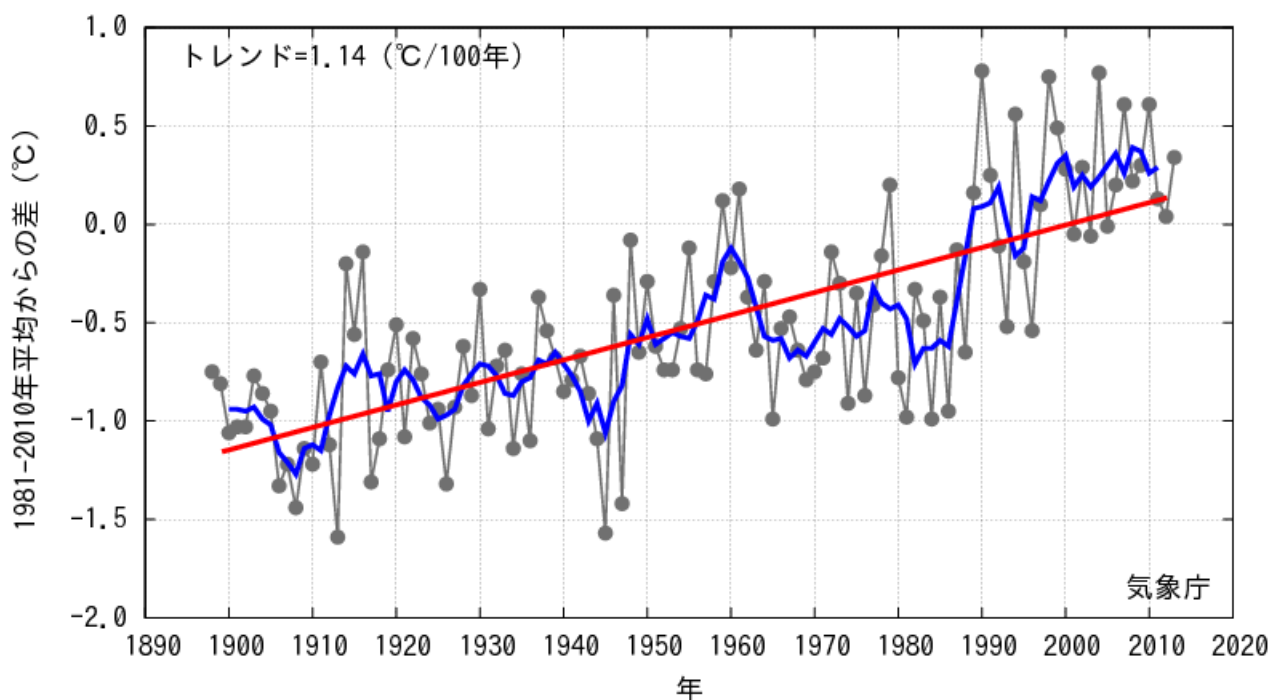


図3 日本の年平均気温偏差の経年変化(1898~2013年)
 黒線は各年の値、青線は各年の値の5年移動平均、赤線は長期変化傾向を示す。

(表) 世界と日本の年平均気温の順位(上位10位まで)

世界			日本		
順位	年	気温偏差(°C)	順位	年	気温偏差(°C)
1	1998	+0.22	1	1990	+0.78
2	2013	+0.20	2	2004	+0.77
3	2010	+0.19	3	1998	+0.75
4	2005	+0.17	4	2010	+0.61
5	2009	+0.16		2007	+0.61
	2002	+0.16	6	1994	+0.56
7	2006	+0.15	7	1999	+0.49
	2003	+0.15	8	2013	+0.34
9	2012	+0.14	9	2009	+0.30
10	2007	+0.12	10	2002	+0.29
	2004	+0.12			
	2001	+0.12			